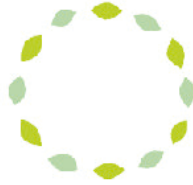


11 月号

ひだまり

わかくさこども園



2022.10.31



あそびをつくる

(2022.10.18)

寒空の下、みそらの女の子たちが園庭の芝生の上で睨み合った。
と思ったら、「よーい、どん！」の掛け声とともに、両者、つかみかかる。
取っ組み合いのけんかではなく、『相撲取り』をしていると言う。

みんなで考えたルールは3つ。

「芝生から出たら負け」「倒れたら負け」「1対1で戦うこと」

芝生エリアに2つある築山の土俵では、
白熱した勝負が何度も何度も、繰り広げられていました。

ちなみに翌日には、芝生の築山からゴロゴロと
転げ落ちる速さを競う遊びに変わっていました→



 11月の予定

8日(火) こむぎ・ゆずは 親子ふれあいday
9日(水) ももはな 親子ふれあい運動day
10日(木) ふじ 親子ふれあい運動day
11日(金) みそら 親子ふれあい運動day
16日(水) 避難訓練 17日(木) 歯科検診
22日(火) 地域子育て相談会

なんでもない日の、子どもたちのこと

わかくさの今とこれから。子どもたちのことを思いつくまに。

園長 習田 和正



ハロウィンはだれのもの？

みなさんにこの11月のひだまりを発信するまさに今日は、全国的に「ハロウィン」と呼ばれる有名な日でもあります。わかくさでも「わかくさハロウィン」の一日となりました。

幼児ではお楽しみの一つとしてスタンプラリーをし、私のところにもたくさん子どもたちが「スタンプちょうだい！」と前のめりにやってきました。そのごほうび、というわけではないですが、ハロウィンのしきたりに倣い、園からもちょっとしたお菓子を子どもたちに渡しています。おうちでも、今日の様子を子どもたちと話しながら、楽しんでもらえると嬉しいです。

(今日の様子は、フォトコーナーでもご紹介していますのでご覧ください)

この「わかくさハロウィン」、特に園としては年間予定などに行事として位置付けていたわけではないのですが、今の時代、ハロウィンのことを知っている子どもも複数いて、なんとなく「ハロウィンやりたいね」の雰囲気が園の中で出てきた、といういきさつがあります。

先生たちも、子どもたちの興味に応える形で、アトリエのコーナー遊びやクラスでの制作の時間にハロウィンの飾りや衣装作りを盛り込むなどをしながら、ゆるやかに企画が進んでいきました。

「ハロウィンだから、これをしなければいけない」という特別な決まりはなく、子どもたちも、自分の思うハロウィンを想像したり、表現したりして、当日を迎えます。

そして今日行った「ドキドキスタンプラリー」は、子どもたちがいろんな大人と関われるようにと、先生たちからアイデアを出してくれたものです。



そもそもハロウィンは、今から2000年以上前、ヨーロッパで行われていた祭礼を起源とするものようです（Google調べ）。

今やそんなことは関係なく、人それぞれの解釈で、世界中の人たちが楽しみにするイベントの一つとなりました。ハロウィン一つにしても、多様な価値観が認められるようになったこの時代に、自由に、のびのびと、子どもと大人が一つのことに対して自分のアイデアを出し合い、楽しんでいる姿はほほえましくもあり、たのめしくもありました。



遊ぶか、遊ばれるか

子どもたちが遊んでいる様子をよくよく見てみると気づくのですが、大概の遊びの中には、子どもたちなりのファンタジー（空想）が入っています。おままごとやごっこ遊びはそもそもファンタジーから始まることが多く、他にも、なんとなく積み木を並べていたらそれが道に見えてきて、友だちと一緒に空想の街を創り上げたり、男の子たちはアトリエコーナーで剣やてっぽうを作るとすぐ、大好きなキャラクターになりきって、アニメの戦いの一場面を再現したりします。

今はテレビだけでなく、スマートフォンやタブレット端末が普及して、インターネットサイトや動画が気軽に楽しめる時代です。子どもたちがそれらに触れる機会も、昔に比べたら格段に増えています（3歳の娘も、あっという間に私のスマホを操作できるようになりました）。

そんな背景もあってか、今の子どもたちは、色々なことを、よく知っています。子どもたちの空想は、だいたい自分の見聞きしたことから生まれるのですが、時に、子どもが私もよく知らないことを遊びの中で上手にやっていることもあって、驚くことがあります。

みそらの女子たちの相撲取りも、その一つでした。掛け声こそ「はっけよーい」ではありませんでしたが、相撲選手の動きや、土俵上でのルールなど、かなり細かいところまでうまく再現していたように思います。おそらく、園庭に

ある芝生エリアの二つの築山から土俵を連想し、相撲遊びが始まったのだと思いますが、何もないところから遊びを生むその発想力には、舌を巻きます。

おもちゃや遊具の中には、あらかじめ遊び方がきっちりと決められているものも多くあります。決まっているので、遊びに入りやすく、手軽さはあるのですが、案外飽きるのも早いものです。ですが、自分の空想を入れながら、一人で、あるいは友だちと作り上げていく遊びには、高い集中力とひらめきを発揮するのが子どもです。納得いかなければ途中でルール変更するのも有り。そのせいで整合性がとれず、友だちと言い合いになることもありますが、それも大事な経験です。

自分で遊ぶか、遊びに遊ばれるか。遊びの中で何かを成し得た時の達成感は、前者の方がずっと大きく、自分の力として、その先も残っていくことでしょう。日々の子どもの姿を見ながら感じています。



4人がかりで作った積み木の街



連載コラム

こども園たんけんたい



第7回「つながるキッチン 𠂇𠂇」

子どもたちが朝登園してくると、一番最初にランチホールで手を洗います。その手洗い場の隣にあるのが、キッチンの中が一望できるガラス窓です。窓に張りついて、中の様子を眺めたり、調理員さんとガラス越しのタッチをしたりして、そのあと保育室に行く。子どもたちのモーニングルーティンです。

人は「食べる」行為を五感で行います。キッチンから漂う仕込みの匂い、包丁で刻むトントンという規則的な音からも、食べる意欲はかきたてられます。朝、その日のメニューのことを想像しながらクラスに入り、午前中の主活動でとことん頭と身体を動かしてから給食の時間を迎える。そのプロセスがあるのとないのとは、食へ向かう姿勢はまったく違ってきます。

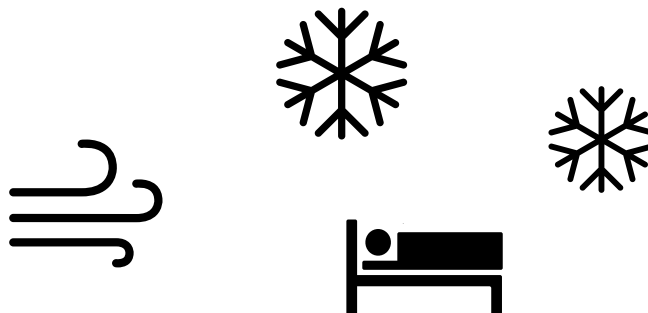
「食べる力=生きる力」。わかくさが大事にしているこの食育方針は、まず、子どもたちの興味が食につながることから始まっていきます。

保健だより

インフルエンザやノロウイルスなど、冬に多い感染症が流行る季節がやってきました。手洗い・うがいを徹底し、規則正しい生活を送るように心がけ、感染症を予防しましょう。

○かぜ予防6か条

- ・うがい、手洗い
- ・汗をかいたらすぐ着替え
- ・バランスのよい食事
- ・部屋の換気と加湿
- ・規則正しい生活リズム
- ・人混みを避ける



○インフルエンザ予防接種

インフルエンザは脳炎や肺炎を起こしやすく、1回の接種だけでは十分な免疫ができません。重症化を予防するのに必要な免疫ができるのは、2回目を接種して2週間ほど経った頃からです。

だいたい10～11月頃に1回目を接種し、およそ2～4週間あけて2回目を接種します。12月頃には接種を済ませておきましょう。



○11月12日は「いい皮膚」の日

これからいよいよ、空気が乾燥する季節に入りますね。人の皮膚は、湿度が50%以下になると乾燥が始まると言われています。加湿器の使用や、洗濯物の部屋干しなどで室内の湿度調整をおこない、衣服はなるべく通気性が良いものを選びましょう。特に、皮膚のバリア機能が弱い乳児は、冬場だけでなく一年を通したスキンケアが欠かせません。医師や薬剤師に相談して、子どもの肌質や年齢に合った保湿剤を見つけておくと安心です。



看護師・藤井 佑季



11月 保健の予定

- | | |
|--------|------------------|
| 17日（木） | 歯科検診 |
| 24日（木） | ももはな・ふじ・みそら 身体測定 |
| 25日（金） | こむぎ・ゆずは 身体測定 |



わかくさ ハロウィン



子どもたちがアトリエで作った
個性的なお化けが玄関でお出迎え



ふ
と
お

こむぎとゆずはは、お化けの玉入れ
やお化け探しゲームをして、
ハロウィンの雰囲気を楽しみました



自分たちで作った衣装とスタンプ台をもってスタンプラリーへ
園内のいろいろなところにいる先生たちを探して、シールを集めました



どんぐり の 森へ行こう



「どんぐりがいっぱい欲しい！」
子どもたちの声を受けて
ももはな・ふじ・みそらで
中里地区の森へ



どんぐりの仕分けもお手のもの
色、大きさ、形ごとに分けていく



こ — な —



「食べる」に
かかわる



キッチンさんとの合同企画第一弾「じゃがいもあらい」
食べ物を知ることは、食を大切にすることへの第一歩



「イザ」に
備える



引き渡し訓練へのご協力、ありがとうございました
子どもたちも、いつもとは違う緊張感を味わいました

わかかさこども園

wakakusa kodomoen